

第13講 『月経異常』

: 月経周期の異常、経血量(質)の異常、月経持続期間の異常等を含めて言うが、東洋医学では月経周期の異常を主にしながら病態を把握する。

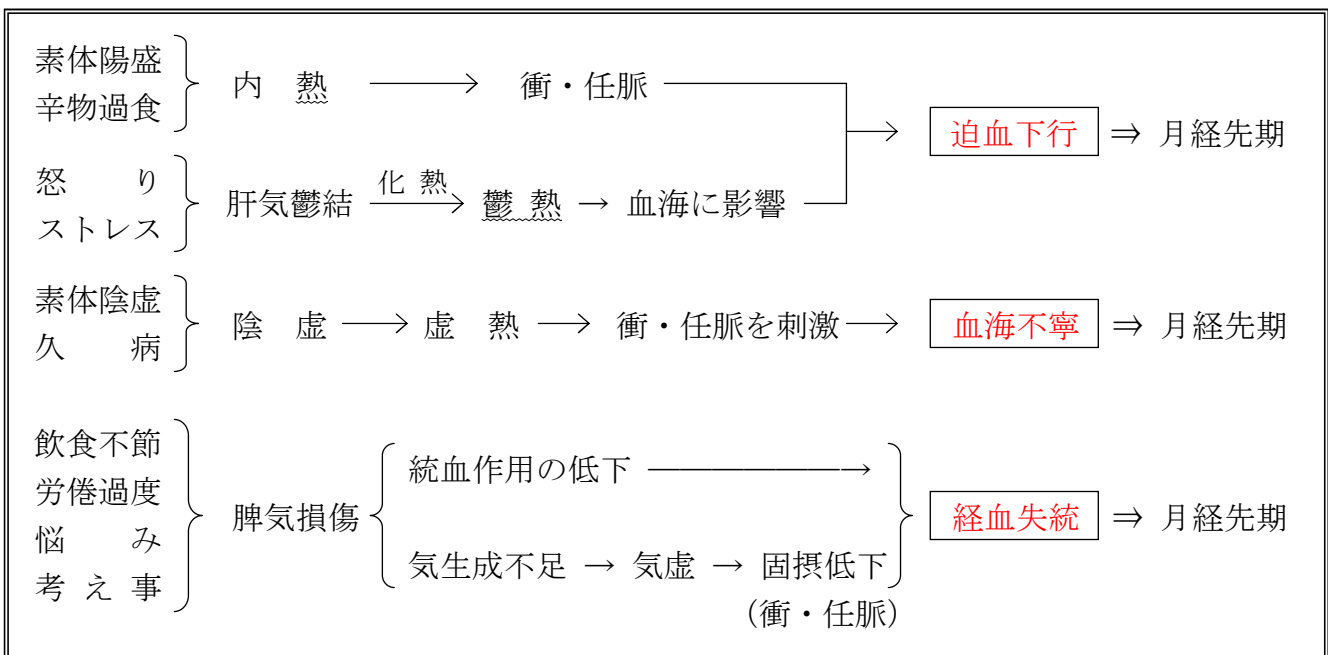
月経周期の異常を「**月経不調**」と呼ぶ。

}	月経不調	月経先期 (経早) : 周期が7日以上早まるもの、甚だしければ一月に2度来るものも。
		月経後期 (経遅) : 周期が7日以上遅れるもの、甚だしければ4,50日で一潮。
		月経前後不定期 (経乱) : 月経が周期どおりに来ず、先期になったり後期になったり一定でないもの。
		閉経 : 月経が3ヶ月以上来ないもの。

第1節 『月経先期』 (経早)

【分類】 { 実証 : **実熱、鬱熱**
虚証 : **虚熱、気虚**

【病因病機】



【 弁証の要点 】

(1) 経量・経色・経質の状況

{	先期 + 量多、色淡、質稀薄	： 気虚
	先期 + 量多、色紫紅・深紅、質粘稠気味	： 実熱
	先期 + 量少・多、色紅、質粘稠気味	： 虚熱
	先期 + 量多・少、色紫紅、有塊	： 鬱熱

【 症状と処方例 】

基本穴：

	経絡	意義	取穴部位
関元	任脈	調理衝任	前正中線上にあり、臍下3寸。
血海	脾経	調血	膝蓋骨内上角の上2寸。

関元穴は任脈経穴であり、足の三陰経の交会穴である。また“衝脈は関元に起こる”と言われ調理衝任の要穴である。

1. 実熱

[症状] 月経先期、量は多く、経色は紫紅か深紅、経質粘稠気味である。顔面紅潮、口渇、

小便短黄、大便乾燥、舌質紅、苔黄、脈数。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
太衝	肝経	清血分熱	第1・2中足骨底間の前陥凹部
曲池	大腸経		肘窩横紋の外方、上腕骨外側上顆の前

2. 鬱熱

[症状] 月経先期、経量は多かたり少なかりする、経色は紫紅、経質は粘稠で血

塊を伴う。乳房、胸脇部、小腹部の脹痛、心煩、怒りっぽくなる。舌質紅、苔黄、脈弦数。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
行间	肝経	疏肝解鬱	第2中足指節関節の前、外側陥凹部
地機	脾経	清血分熱	内果の上8寸、脛骨内側縁骨際

3. 虚熱

[症状] 月経先期、量は少なかったり多かったりする、色は紅、質は粘稠気味。両顴潮紅、五心煩熱、舌紅少津、脈細数。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
三陰交	脾経	益陰清熱	内果の上3寸、脛骨内側縁
然谷	腎経		内果の前下方、舟状骨粗面の直下

4. 気虚

[症状] 月経先期、経量は多く、経色は淡、経質は稀薄。倦怠感、息切れ、心悸、小腹部の下垂感。舌淡、脈弱無力。

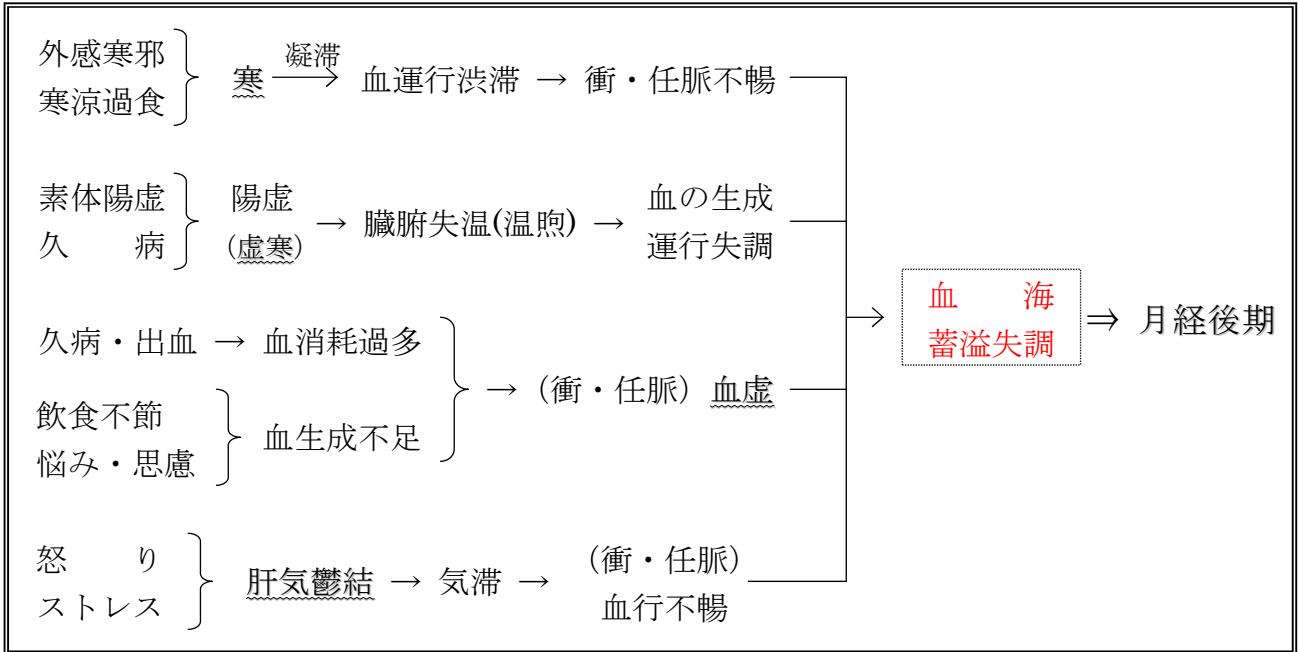
[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
足三里	胃経	益気摂血	膝を立て、外膝眼穴の下3寸
脾俞	膀胱経		第11・12胸椎棘突起間の外1寸5分

第2節 『月経後期』（経遅）

【分類】 { 実証：寒邪、肝鬱
虚証：虚寒、血虚

【病因病機】



【弁証の要点】

(1) 経色、経量、経質の状況

- 血寒：後期 + 量少、色暗有塊、小腹冷痛拒按
- 血虚：後期 + 量少、色淡、質稀薄
- 気滞：後期 + 量少或いは正常、色暗紅或いは小血塊を伴う、小腹胀満痛
- 虚寒：後期 + 量少、色淡暗、質稀薄、小腹冷痛、喜温、喜按

【症状と処方例】

基本穴：

	経絡	意義	取穴部位
気海	任脈	調和衝任	神闕穴の下1寸5分
気穴	腎経		臍下3寸、前正中線の外5分
三陰交	脾経	益腎調血 補陽衝任	内果の上3寸、脛骨内側縁

気海は任脈経穴、気穴は腎経と衝脈の交会穴。二穴を配合し調和衝任の効果が得られる。

1. 寒邪

[症状] 月経後期、月経量は少なく経色は暗紅、経質は正常または血塊を伴う。小腹部の冷え痛み、温めると軽減、顔色は青白い、四肢の冷え、寒がり。脈遅緊。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
帰来	胃経	温通胞脈	臍下4寸、前正中線の外2寸
天枢	胃経	活血通経	臍の外2寸

2. 肝鬱

[症状] 月経後期、経量は少なく経色は暗紅で小血塊を伴うこともある。小腹脹満、胸脇・脇腹・乳房脹痛、脈弦。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
太衝	肝経	疏肝解鬱	第1・2中足骨底間の前陥凹部
蠡溝	肝経	理氣行血	内果の上5寸、脛骨内側面状、陥凹部

3. 虚寒

[症状] 月経後期、経量少、経色淡紅、経質は薄く血塊を伴わない。小腹痛、喜熱喜按、腰がだるく力が入らない、小便清長、舌淡、脈沈遅・細弱。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
命門	督脈	温腎壮陽	第2・3腰椎棘突起間
太谿	腎経		内果の最も尖ったところの高さで、内果とアキレス腱の間

4. 血虚

[症状] 月経後期、経血量は少なく、経色は淡、経質は稀薄、小腹部痛（空虚感を伴う）、めまい、不眠、心悸、顔色はつやがなく黄色。舌淡、苔少、脈虚細。

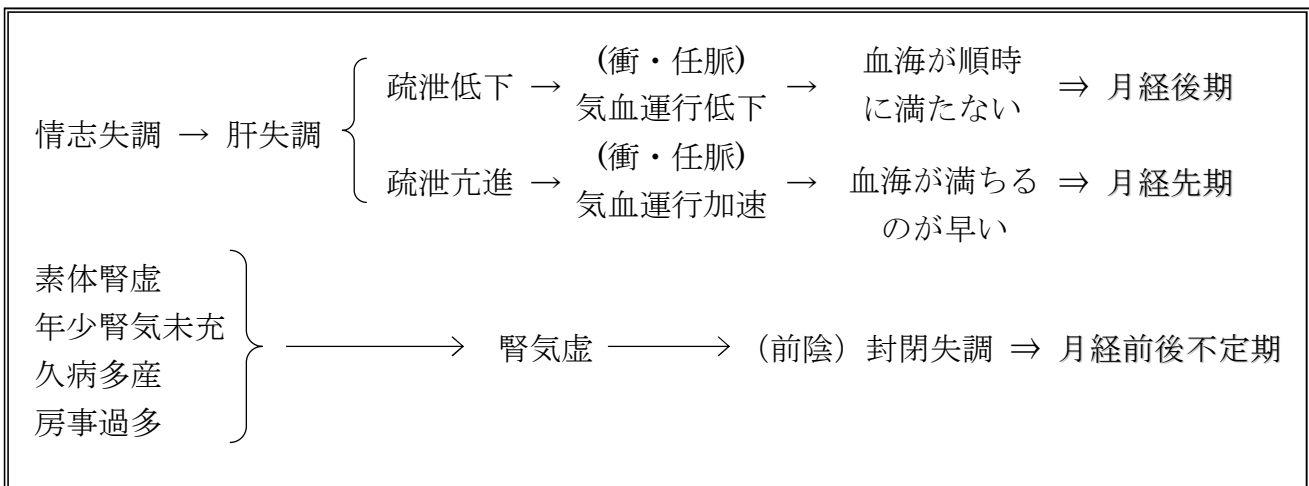
[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
膈 兪	膀胱経	調補脾胃 益生血源	第7・8胸椎棘突起間の外1寸5分
脾 兪	膀胱経		第11・12胸椎棘突起間の外1寸5分
足三里	胃 経		膝を立て、外膝眼穴の下3寸

第3節 『月経前後不定期』（経乱）

【分類】 { 実証：肝鬱
虚証：腎虚

【病因病機】



【弁証の要点】

(1) 月経量、経色、経質

{ 肝鬱：月経量多或いは少、血塊を伴う、経色は暗紅、小腹の脹痛が顕著で胸腹に及ぶ。
腎虚：月経量は中等或いは少、経色は淡く、質は稀薄、腰部に酸痛がある。

【 症状と処方例 】

基本穴：

	経絡	意義	取穴部位
関元	任脈	和肝補腎	前正中線上で臍下3寸
三陰交	脾経	調理衝任	内果の上3寸、脛骨内側縁

1. 肝鬱

[症状] 経乱、経血量が多かったり少なかったりする、経色は紫紅、経質は粘稠気味、乳房・小腹部の脹痛、月経の来潮により軽減、よく溜め息をつく。脈弦。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
太衝	肝経	疏肝解鬱	第1・2中足骨底間の前陥凹部
肝兪	膀胱経		第9・10胸椎棘突起間の外1寸5分
期門	肝経		第9肋軟骨の付着部下際

2. 腎虚

[症状] 経乱、経血量は少ない、経色は淡、経質は稀薄。耳鳴り、めまい、腰のだるさ。舌淡、脈沈弱。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
腎兪	膀胱経	調補腎気封閉	第2・3腰椎棘突起間の外1寸5分
太谿	腎経		内果の最も尖ったところの高さで、内果とアキレス腱の間
水泉	腎経		太谿穴の下1寸、踵骨隆起の前、陥凹部